

2015 年 12 月 24 日

寄りそい地域事業—居住・生活支援事業と人材育成（レジュメ）

NPO 法人自立支援センターふるさとの会
滝脇 憲

1. 「トラブルミーティング」の事例
2. 支援付き住宅
 - ・ 支援付きアパート
 - ・ 自立援助ホーム
 - ・ 認知症対応シェアハウス
3. (株)ふるさとのによる社会的不動産事業
 - ・ 家主に寄りそう
 - 支援付きアパート
4. NPO の生活支援＝寄りそい支援
 - ・ 生活圏域（地域居住の重要性）
 - ・ 独居利用者の生活困難
 - 寄りそい地域事業
 - 戸建て（空き家活用）、認知症対応シェアハウス、長屋化、サロン開設
5. 対人援助論
 - ・ 機能障害を生活障害にしない生活支援・寄りそい支援
 - ・ トラブルミーティングを通じて互助づくりへ
 - ※ 対人援助論（ソフト）と事業展開（システム）は一体的
6. 人材育成（生活支援員の検定研修）
 - ・ ケア研修
 - ・ ケア検定
 - ・ 雇用創出（1168 名の地域居住と 289 名の雇用創出）
7. 課題
 - ・ 寄りそい地域事業の活用と普及（地域居住の推進）
 - ・ 権利性実現に向けた生活支援のオーソライズ（検定研修）
 - ・ 生活保護受給者や低所得・低資産高齢者が家賃・利用料を払える仕組み
 - ・ コミュニティリスクの軽減
 - 家族介護者の負担軽減、発達期リスクへの対応

参考事例① トラブル対応（物盗られ妄想）

登場人物

A氏：80代女性、アルツハイマー型認知症

B氏：70代男性

C氏：80代男性

D：生活支援職員

A氏が、隣の部屋に住むB氏に「物を盗られる」と思い込み、部屋に侵入されないよう自室に立てこもってしまった。女性と仲が良いC氏がD職員に知らせてくれたので、事情を聞きに行くと、「私がいけない時勝手に部屋に入ってくる。部屋に鍵をかけても駄目。部屋をあけておくのは危険だから、今日はもう一歩も部屋から出ません」と取り付く島もない。

A氏は3カ月前まで近隣のアパートで独り暮らしをしていたが、物盗られ妄想が原因で自らアパートを解約し、住まいを失ってしまった。緊急でふるさとの会の共同居住に移り住んだものの、同様の事態になってしまった。

職員は、B氏、C氏とともに、どのようにA氏の誤解を解くか話し合った。B氏は「一度も入った事ないのに、どうしてそうなったのか不思議です」と困惑した。とはいえ、A氏の中ではB氏が部屋に入った事になっている。実際に入っていないか、「入っていない」と言ってしまうと更に反発される。そこで、食事の時間になったのでA氏を呼んだが、返事がなかったため無事かどうか心配になって確認する為に入った、ということにした。以下は、皆でA氏の居室に行った時のやりとりである。

A氏「何でしょう？」

職員「部屋に勝手に入ったと言う件で。」

B氏「すみませんでした。」

A氏「貴方ね。普通他人の部屋に返事もないのに勝手に入ったら駄目でしょう。」

B氏「部屋をロックしたけど、返事がなかったので心配で入りました。」

A氏「どういう事？」

職員「実は、ここではお隣同士の安否確認をする習慣がありまして。Bさんも悪気があって部屋に入った訳ではないんですよ。」

A氏「あらそうなの？わかりました。でも今度から返事もないのに入ってきちゃ駄目よ。」

B氏「はい。気を付けます。」

C氏「俺もいるから、いざって時は言ってくれ。すつとんで来るから。な？（笑）」

A氏「あらやだ、約束よ（笑）」（不機嫌だった表情が笑顔になる）

職員「と言う訳なので。」

A氏「わかったわ。私も言い過ぎちゃったみたい。ごめんなさいね。」

B氏「いえ、大丈夫です。こっちこそすみませんでした。」

A氏は部屋から一歩も出ないという勢いであったが、話し合いの後は食堂に1人で降りて来て、普段通りに過ごされた。この話し合いは、B氏、C氏の協力がなければ成り立たなかったが、A氏を含めて当事者が集まり、A氏の世界をみんなで一緒に見て、共に解決策を考えることによって、「部屋に入った」の意味が変容し、今後は「お隣同士の安否確認をする」という新たな役割関係が生まれた。そのうえで、職員は非常勤を含む他の職員とミーティングを行うとともに、A氏のケアマネージャー、主治医、家族とも対応を共有した。

参考事例② 非常勤職員ミーティング

登場人物

D：生活支援職員（事業所責任者）

E：生活支援職員（非常勤、70代）

F：生活支援職員（非常勤、40代）

職員Dの主催で非常勤職員8名が参加。支援記録を共有の上。概要を説明した（D、E、Fの発言から抜粋）。

D：Eさんだったらどうしますか？もし、勝手に部屋に入っただろうって言われたら。

E：そりゃ入ってないって言うよ。

F：それじゃ駄目だよ。否定するとかえって反発が強くなるから。

D：ここでは、何故Aさんが部屋に入っていないのに入ったと主張しているのかを、Aさんの立場にたって考えました。つまり、視点の転換をしたわけです。この「すみません」とBさんが謝ったのは、視点を転換しなければ出てこない言葉ですよね。Bさんは実際には部屋に入っていない訳ですから。…その話し合いの中で、Bさんは「部屋に無断で入る侵入者」から、「心配してくれる隣人」へと意味が変わり、更にCさんが「困った時は助けに行く」と役割を担ってくれた事で、安心が生まれ、頑なな心が溶けて、部屋から出てくる事ができました。認知症などの病気によって生じた誤解が、こういう関わり方をする事によって、日常生活を阻害する事なく、解決する事ができました。

F：どんどん他の利用者をまきこんで、当事者になってもらえばいいと思うんですよ。この人がパニックになった時は、この人と一緒に対応するみたいなの。

E：まず話を聴いて。えーそれからなんだ、他の利用者さんにも協力してもらって一緒に考えてやるって事でいいか？（笑）

D：視点の転換をして相手の立場で考える。その人の見ている世界と一緒に見ると言う事ですね。

E：相手の立場で考える。わかった。

生活困窮者の自立支援事業を担う職員を研修・育成しています

ふるさとの会では、都内の各地域にサポートセンターを設置し、生活困窮状態にある高齢者・若年者・障害者等にむけた総合相談・生活支援事業を行っております。様々な生活課題、心身の疾病や障害など自立を阻害する要因を抱えた対象者に適切な支援を提供するためには、福祉・医療・介護・行政サービス等の制度・法律や、援助技術を学ぶ必要があります。福祉資格の有無に限らず、社会福祉を志す熱意のある職員を法人独自の研修制度により育成し、また、ケアマネジメントマニュアルに沿った、ケア検定制度を設けることにより、段階に応じた職員育成を行っております。

ふるさとの会 ケア検定・昇級制度

ケア研修・ケア検定			職域・職能			
等級	研修		認定方法	職域	職能(対人援助)	
	実践	理解				
1級	【ケア研修】 更新研修	マネジメント研修	包括支援計画の発表会	地域包括支援	ケアをスーパーバイズできる 課題の発見と場の設定ができる 集団的危機管理ができる エリアマネジメントができる	
2級		リーダー研修	利用者ミーティング トータルプラン作成	連携支援	連携して問題解決ができる カンファレンスを主導できる 互助づくりを主導できる ケアの共同性を確保できる	
3級		事例相談室 相談会	全体研修	筆記試験(基礎知識) ケアプラン作成 ケア研修で発題者発表 39項目の受講票	援助方針	問題解決ができる 支援方針が立案できる キーパーソンになれる 社会サービスの評価
基礎検定		ケアプラン 研修	講演会 読書会	対人援助レポート・面接 ケア研修「生活支援項目」の受講票	基礎対応	生活支援の基礎対応ができる
		基礎研修				



的場保健師による講義



全職員を対象に学習会

39項目の初任者研修

・保健師監修（NPO法人すまい・まちづくり支援機構・的場保健師）による「ケア研修」を年に2回実施。福祉・医療などの制度理解、疾病・障害など対象者の理解、社会サービスのコーディネートから日常生活支援の技術まで学びます。

第一線で活躍する講師を招いた学習会

・福祉や医療の専門家・学識経験者など、第一線で活躍する講師を定期的にお招きし、講演会や学習会を開催しています。

2015年度後期 ケア研修スケジュール

講義NO	日程	研修名	内容	講師(発題者)
20		対人援助論	対人援助論を実践的に理解する	水田恵
4	10/2(金) 10:00-10:40	障害者総合支援法・障害者手帳・年金	障がい者自立支援法の申請手続き・利用できるサービス	的場由木
7	10:50-11:30	高齢者に多い疾患(糖尿病・高血圧・脳血管疾患・高次機能障害)	糖尿病の基礎知識・日常生活の注意点など	的場由木
8	11:40-12:20	認知機能障害の理解①知的障害・発達障害	知的障害・発達障害では、どのような生活困難があるか	的場由木
9	13:20-14:00	認知機能障害の理解②認知症	高齢者に多い症状や身体機能の状態・認知症はどのような生活困難があるか	的場由木
10	14:10-14:50	メンタルヘルス①アディクション	アルコール依存症/ギャンブル依存症/薬物依存症	的場由木
3	15:00-15:40	介護保険法	介護保険の申請手続き・介護保険で利用できるサービス・ケアプランの見方	HSふるさと
1	15:50-16:30	生活保護	生活保護制度の基本知識・保護施設・宿泊所について	佐久間裕章
25	16:40-17:20	居住支援①アウトリーチ・路上生活者支援・まちカフェとシェルター	アウトリーチ・路上生活による心身の影響・まちカフェの相談事例・居住確保につなぐまでの支援など	佐久間裕章
11	10/9(金) 10:00-10:40	メンタルヘルス②統合失調症	統合失調症の理解	的場由木
12	10:50-11:30	メンタルヘルス③気分障害(うつ・双極性障害)・適応障害・グリーフケア	気分障害についての基礎知識、喪失体験が及ぼす心身の影響とその回復を支えるケアなど	的場由木
6	11:40-12:20	個人情報保護・守秘義務	個人情報保護法と守秘義務についての基礎知識	古木大介
21	13:20-14:00	ケアマネジメント①アセスメント・ケアプランの作成	アセスメントの基礎知識・ケアプラン作成の留意点など	船木友里恵
22	14:10-14:50	ケアマネジメント②トータルプラン・社会サービス機関とのカンファレンス・意思決定	トータルプラン作成の視点・社会サービス機関との連携・トラブルなど	船木友里恵
36	15:00-15:40	支援記録、報告書の書き方	各種支援記録の書き方・日報の重要性など	船木友里恵
5	15:50-16:30	多重債務・権利擁護・法律相談	多重債務の整理についての基本知識、後見人制度についての基本知識	秋山雅彦
27	16:40-17:20	更生保護・自立準備ホーム・裁判支援	更生保護制度の基本知識・保護司との連携・自立準備ホームの活用・裁判支援など	秋山雅彦
13	10/16(金) 10:00-10:40	メンタルヘルス④トラウマと不安(不安障害・PTSD・解離性障害)	不安とは何か・トラウマに関わる心のケアについての基礎知識	的場由木
14	10:50-11:30	メンタルヘルス⑤育ちの支援(虐待経験からの回復・人格障害・摂食障害)	境界性パーソナリティ障害の理解と対応 / 自傷・リストカットへの対応	的場由木
37	11:40-12:20	衛生管理・感染症対策(インフルエンザ・ノロウイルス)	基本的な感染症対策・シラミ対策・疥癬対策・ノロウイルス対策	田辺登
2	13:20-14:00	ホームレス自立支援法	ホームレス自立支援法についての基本知識	古木大介
23	14:10-14:50	地域リハビリ①利用者ミーティング、仲間づくりと互助、共済会	互助とは・なぜ仲間づくりが必要なのか・共済会の役割・利用者ミーティングの進め方など	玉腰勲
24	15:00-15:40	地域リハビリ②就労支援・ケア付き就労	ケア付き就労の考え方・社会適応訓練・就労支援の実際	鈴木宏仁
26	15:50-16:30	居住支援②アパート保証	アパート保証の仕組み、各種手続き、近隣トラブル対応	鈴木宏仁
36	16:40-17:20	喫煙対応・防災	防災対策の基本・日常で気をつけること	鈴木宏仁
15	10/23(金) 10:00-10:40	メンタルヘルス⑥自殺のリスクと対応	自殺のリスクの高い利用者の理解と対応	的場由木
16	10:50-11:30	メンタルヘルス⑦性の理解(性同一性障害)	性同一性障害の利用者への理解/性の多様性についての理解	的場由木
30	11:40-12:20	介護基礎知識①外出移動	介護技術の基本・車いすの操作など 転倒予防	HSふるさと
31	13:20-14:00	介護基礎知識②移乗介助・ボディメカニクス	移乗介助・ボディメカニクス	HSふるさと
32	14:10-14:50	介護基礎知識③食事介助	介護技術の基本・食事	HSふるさと
33	15:00-15:40	介護基礎知識④排泄・保清・入浴介助	介護技術の基本・排泄ケア、介護技術の基本・入浴/清拭/口腔ケア/更衣	HSふるさと
34	15:50-16:30	金銭管理	金銭管理の基本・帳簿つけ	石神朋敏
17	10/30(金) 10:00-10:40	感染症①HIV・肝炎	HIVの基本知識と理解	的場由木
18	10:50-11:30	感染症②結核	結核の基礎知識・DOTSの理解	的場由木
19	11:40-12:20	がん・難病	がんの基礎知識・主な難病の基礎知識・がんサロンの活用	的場由木
28	13:20-14:00	緩和ケア・看取り	看取り支援・緩和ケアと在宅医療との連携・偲ぶ会について	的場由木
29	14:10-14:50	ケアとアート	ケアとアートについて/自己表現について/ギャラリーカフェの役割と活用	的場由木
38	15:00-15:40	応急処置・救急搬送・体調不良時の対応・計測	救命講習救急車の呼び方、看護師・医師への連絡と対応、体温のはかり方、血圧計の使い方など	的場由木
39	15:50-16:30	医療的ケアの範囲・服薬管理	医療的ケアについて 服薬管理の基本・服薬管理ミスをしないうために	的場由木